



2018・8・21

第 315 号

101-0065 東京都千代田区
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

自民党総裁選が改憲論議再開・強化の場に

安倍×石破で改憲論競い合い

安倍首相は 10 日、自民党石川県連幹部との会合で、「憲法改正は何としても自分が首相の間にやり抜きたい」と語り、12 日には地元山口県での講演で、改憲について「いつまでも議論だけで終わるわけにはいかない。党の憲法改正案をつぎの国会に提出できるよう、取りまとめを加速すべきだ」と述べ、9 月の総裁選を乗り切った後、臨時国会での改憲発議も辞さない執念を表明しています。

改憲右翼団体も運動強化へ氣勢

改憲右翼団体「日本会議」と「英霊にこたえる会」は 15 日、靖国神社で集会を開き、安倍首相がねらう臨時国会での改憲発議に向け氣勢をあげました。

英霊にこたえる会の寺島泰三会長（元統幕議長）は、「憲法改正の論議は昨今の政治情勢、政府の不祥事という逆風により足踏みを余儀なくされ」たが、「今回の機会を逃したら未来永劫憲法改正の道は閉ざされる」と述べ、「よりいっそう運動の輪を広げ、

断固として憲法改正を実現するよう全力を結集すべき」とよびかけました。

目標達成への詰めをめざし交流

【広島県／総がかり行動】 「安倍 9 条改憲 NO！3000 万署名」は、広島県内で 19 万 4304 筆（7 月 25 日現在）となり、20 万筆まであと一息となりました。

全国市民アクションは 7 月 1 日、「秋の臨時国会をめざし 3000 万人」とのアピールを発表、「さらなる戸別訪問と対話」を呼びかけていますが、県内では 6 月 10 日に三原市民行動が「市民集会」、7 月 19 日には福山総がかり行動が「対話集会」を開くなど内容豊かな共同運動の経験を深めています。

広島総がかり行動実行委員会は 8 月 25 日、広島弁護士会館で県内のグループ、九条の会など市民団体による「3000 満署名達成へ～全県意見交流会」を開きます。（「広島マスコミ九条の会」第 76 号）

翁長沖縄県知事の遺志継いで

【神奈川県海老名市／海老名市九条の会】 神奈川県海老名市の九条の会は 11 日、

海老名駅前で「安倍9条改憲NO！」3000万人署名行動をおこないました。7人が参加し、1時間で70人が署名しました。

弁士は、「急逝した翁長雄志沖縄県知事の遺志を受け継ぐ」として、「基地のない沖縄、憲法9条が生きる平和な日本を」と訴えました。

署名に応じた市内門沢橋の女性は、「9条が変えられる危険があるのは怖い」と語りました。相模原市の女性も抱えた1歳半の子どもも見つめながら「この子の将来にとっても平和でないと」と述べ、署名に応じました。

部活帰りの高校生も署名し、「署名を集めたい」と用紙を持ち帰る女性や宣伝行動終了後も署名に駆け寄る人の姿もありました。

知恵出し合って多彩な活動めざす

【神奈川県厚木市／相川九条の会】 相川九条の会は現在会員数234名、毎月ニュースを発行し12名で手配りをしています。他に年2～3回の映画会、親睦会、隔月地域内各所でサイレントスタンディングを行っています。

3000万人署名は、各人の繋がりを頼りに集めたり、数人で地域を決めて訪問し署名集めをしました。あまり繋がりがなく入り込めないところを中心に、はがきサイズの署名用紙をポストインもしました。成果は少なかったですが、宣伝にはなったかなと思います。

改憲阻止までいろいろ工夫して行動していきたいと思います。

(梅原美恵子「あつぎ・九条の会」No142)

9寺で平和をねがう鐘つき

【金沢市／寺町台9条の会】 寺町台9条の会は、朝から気温が上昇し猛暑日となった終戦の日の15日、「平和の鐘つき」を寺町周辺の9カ所の寺で実施しました。

2006年から毎年実施し13回目。戦時中、金属不足のため鍋・釜をはじめ仏具・釣り鐘も供出され砲弾などの材料にされました。回収を免れた梵鐘がある臨済宗の少林寺には約50人が参加。

参加者らは、「安倍内閣は9条を守れ」「戦争する国づくりは許さないぞ」などと声をあげながら順番に鐘をつきました。

2回目の参加という、近くの保育園に勤務する白山市の酒井佳苗さん(28)は、「4月に亡くなった祖父はいつも『平和を大切にしてほしい』と話していました。若い世代が継承しなければと思い、今年も平和への祈りを込めて鐘をつきました」と話しました。

地域内全13町訪問へあと1町

【前橋市／かがや9条の会】 前橋市のかがや9条の会はこのほど、設立「12周年記念のつどい」を桂萱公民館ホールで開き、75人が参加しました。

飯田至弘事務局長が「この1年のあゆみ」を報告。この中で10年目に入った独自の「9条署名」は昨年11月から「3000万人署名」に切りかえ、2つの署名2771人分を5月末に九条の会へ郵送したと述べ、桂萱地域13町のうち残る1町を秋までに訪問しきるため、参加者に署名行動への参加を訴えました。

群馬県歴史教育者協議会の岩根承成会長

が、『明治 150 年』地域民衆の主張と行動—参政権・生存権・非戦論を考える」と題して記念講演しました。

この中で岩根氏は、群馬では、1880 年（明治 13 年）の国会開設請願署名は 1 万 2160 人（10 世帯に 1 人分）の運動が展開されたことや 1883 年（明治 16 年）年に桂萱・木瀬・芳賀地域の 30 数力村で農民が生活・生存権を守る要求運動「農民騒擾（そうじょう・一揆）」が発生したことなどを報告しました。

参加者からは「明治時代の地区のたいへんさや農民一揆の事が良く分かった」「今につながる話として胸にひびいた」「地域の人たちが明治から色々な要求を県や国に訴える運動をしていたと知り勇気づけられた」などの感想が寄せられました。

つどいでは、ピアノの弾き語りやコーラスもおこなわれ、地元絵画サークルの協力で絵画が展示されました。

各戸訪問の難しさ、励ましも

【千葉県市川市／こうのだい 9 条の会】

「安倍 9 条改憲 NO！憲法を生かす全国統一署名」（通称『3000 万署名』）は全国いろんなところで取り組まれています。「こうのだい 9 条の会も国府台、中国分、北国分、堀之内地区にお住いの方々を対象に取り組んでいます。

去る 7 月 7 日（土）には国府台 5 丁目、6 丁目を中心に 1 戸 1 戸を訪ねながら署名をお願いしに歩きました。

1 戸 1 戸訪ねながら署名をお願いするのは正直に言って楽なことではありません。インタホンを押すとまず警戒されます。そ

れは私たちでも立場が変われば同じような反応でしょう。怪しげな宗教の勧誘があったりしますものね。それとお留守のお宅が多いです。40 軒訪ねて 15 軒がお留守のところもありました。

それでもめげずにお問い合わせして歩くと、あるお宅では話がはずむうちに自慢のお庭を見せていただき、最後は署名をしていただいたお宅もありました。また、署名をしながら玄関ホールに入れてくださり、「なにかと物騒なご時世だから署名を嫌がる人もいるのは判るわ。でもこの後そう長くはないのだから自分の思っていることはちゃんと言わなきゃね。外に出ているんなら行動は体力的に無理なんだからせめて署名くらいは。今はそれくらいしかできないんだもの」——と逆に励まされたこともありました。（「こうのだい九条の会」NO32）

自衛隊の米軍下請化の歴史学ぶ

【広島県／広島マスコミ九条の会】

広島マスコミ九条の会は 7 月 7 日、広島市中央区で 13 周年のつどいを開きました。豪雨災害で公共交通機関もストップする中、43 人が参加しました。

つどいでは、岩国基地の拡張・強化に反対する広島県住民の会の藤本純子さんが、3 月末からごう音が響く岩国米軍基地の実情を報告。続いて日本平和学会会員の末浪靖司さんが「9 条改憲と安保密約を斬る」と題して、記念講演しました。

末浪さんは、新情報として米紙ウォール・ストリート・ジャーナルが「安倍首相が 2020 年までに憲法を変えよう考えているのは、軍事行動に対する制約を緩和するた

め」と書いていることを紹介しました。

米軍が自衛隊を指揮する指揮権密約については、米側が朝鮮戦争が始まる前から日本再軍備の前提として要求していたと指摘、改憲は日米指揮権密約と一体の共同軍事行動につながると警告しました。岸信介氏の外孫の安倍首相は憲法9条改憲の野望を受け継いで執念を燃やしていると語りました。（「広島マスコミ九条の会」N o 76）

朝鮮半島問題の理解深める

【新聞OB「九条の会」】 新聞OB「九条の会」のお話と納涼の夕べが7月21日開かれました。東京地方は最高気温が34・9度の猛暑に見舞われましたが、38人が参加。朝鮮問題で理解を深める一方、反安倍の闘いを強め、改憲阻止に全力をあげていくことを申し合わせました。

主催者を代表して芳尾孝治事務局長が「今後とも9条を守る闘いを強めていきたい」開会あいさつ。続いて沖縄の新基地建設をめぐる政府と住民の攻防を映したDVD「辺野古のたたかい」を鑑賞しました。

第1部は講演で、講演のタイトルは「南北、米朝情勢はどう変わる」。講師は在日韓国人の文聖姫東大研究員、週刊金曜日記者。

講演では、米朝関係の歴史を概観、6月の史上初の首脳会談で共同声明を発表したことについて、文さんは「70年近く敵対関係にあった国の首脳が会って食事を共にし、合意文書にサイン、朝鮮半島での戦争の危機を回避できた転は評価できる」と総括。

第2部は懇親会に移り、乾杯のあと和やかに懇談しました。（「新聞OB『九条の会』第107号 要旨）

映画「カメジロー」見て決意新た

【埼玉県東松山市／東松山九条の会】

映画「カメジロー」不屈の精神から学ぶ上映会を7月7日午前、午後、夕の3回、東松山市民活動センターで488名の観覧者の参加を得て上映することができました。東松山市教育委員会の後援もありました。

さて瀬長亀次郎氏は私が18才（現在84才）のとき45才で沖縄立法院議員選挙に人民党から出馬し最高点で当選されました。そのときの人気はすごいものでアメリカの施政者が恐れたものです。66年前のことですが忘れられないことです。

「カメジロー」氏は単なる政治家だけでなく人権や人道についてもヒューマンな方でした。それに「不屈」という言葉が示すように心の強い方でした。

施政権返還後46年、辺野古基地反対闘争にも「不屈」の精神は受け継がれています。6月23日に施行された戦役者追悼式で中学3年生の相良倫子さんの「生きる」という詩にもその心は生かされていると感じます。

今後私たち九条の会も「カメジロー」の不屈の精神に学びながら翔いていこうではありませんか。 小川町 富田 和朗

<アンケートから一部抜粋>

- ①沖縄のことを全く知らなかった。涙が止まらなかった。
- ②改めて戦後の県民の思いを知った。感動に尽きる、本土の人々も声を上げろ。
- ③このような大事なことを、もっと早く知るべきだった。教員として授業に反映させるべきだった。

（「東松山九条の会ニュース」N o 62）